

第2回 利賀ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場 議事要旨

平成23年3月29日（火）10:30～12:00
庄川生涯学習センター1階多目的ホール

【出席者】

富山県土木部長、高岡市副市長、射水市長、砺波市長、南砺市長、小矢部市産業建設部長

【主な意見】

- 地すべり対策は、これまでも調査検討が進められてきているが、引き続き必要な調査を十分に実施され、万全な対策を講じていただきたい。
- 工事用道路は生活道路ともなることから、着実に進めていただきたい。
- 代替案の検討を進める際には、庄川流域の特性である、急流河川であること、下流に多くの住民が暮らしていることなどを十分に踏まえて検討してほしい。
- 御母衣ダム等の発電ダムを代替案として検討するに当たっては、ダム管理者の意向やクリーンエネルギーとしての水力発電の必要性についても考慮すべき。
- 河川整備基本方針で6,500m³/s（1/150）が定められ、これを目標に整備が進められており、このことを十分踏まえ、治水安全度の下がることのないようお願いしたい。

- 検討されている代替案を実際に実施する場合、新たなコストが必要であり、住民に理解していただけるか、社会的影響が大きく本当に現実性があるのか疑問である。利賀ダムの進捗率が約30%に達している現時点で、代替案を実施する場合、住民の理解が得

られるか心配である。

○検討はスピード感をもってやってほしい。東北地方太平洋沖地震が起きたので、地方自治体としては災害に対する不安感を持っている。検討に時間がかかり工事が進まないと「何をやっているのか」という声が地元から発せられると思われる。早く方向付けを明確にしてほしい。

○地元としてはダムのできるだけ早い完成を望んでいる。検討期間が長引くとH34を予定していたダム完成時期が遅れることにならないか心配している。

○幅広い代替案を検討することは必要だと理解している。しかし、明らかに効果、実現性の無いような案について必要以上に時間をかけることは疑問である。東北地方太平洋沖地震を目の当たりにして時間だけが過ぎるのは住民に理解が得られないと思われる。効率的に検討を進めて早く結果を出して、ダム完成までの期間を短縮することが大事だと思っている。

○流域を中心とした対策については、抜本的な代替案とは成り得ないと感じている。

○東北地方太平洋沖地震で電力供給が問題になっている中、代替案として御母衣ダムの活用は発電エネルギーの確保という観点での影響が懸念される。

○河道改修においては、掘削土砂の処理や土地の確保が心配。

○今回の東北地方太平洋沖地震による津波で河川堤防が大きな被害を受けたように洪水に対しても弱いと思われる。ダムは確実に水を止める施設であり、利賀ダムの早期完成が重要と考えている。

以 上